

## 令和4年度実施分 甲塚古墳出土遺物の保存修理

平成30年度から国庫補助事業として実施している甲塚古墳出土遺物の保存修理事業の令和4年実施分が完了しました。令和4年度は人物埴輪3体（人14・18・19）の保存修理を実施していますが、人19の人物埴輪の修理について詳しくご紹介します。



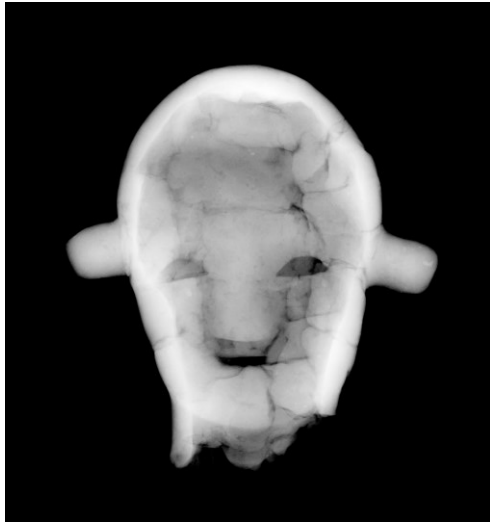
### 人物19の概要

馬を引く馬子（まご）を表現したもので、右手を上げて腰の背中側に鎌をつけている。

基部と右腕が欠損し、全体の50%程度が残存。

### 人19の修理前の状態

ばらばらの状態で出土していますので、接合し、足りない箇所を補修した状態です。白っぽい部分が補修した場所です。基部と右腕を欠損し、全体で50%程度が残存しています。



①まず初めに、埴輪の状態を確認するためにX線写真撮影を行い、目には見えないヒビ等がないかを確認します。

←顔のX線写真



②すべての破片を外してクリーニングを行います。補修材もすべて取り外します。解体するとこれだけ多くの破片となります。



③再接合し樹脂で復元を行います。後に修理が必要となった場合に取り外すことができる樹脂を使っています。基部は他の埴輪を参考に復元しています。右腕についても他の埴輪を参考に復元しましたが参考資料となるため取り外しができます。また、表面が脆弱なため補強を行っています。



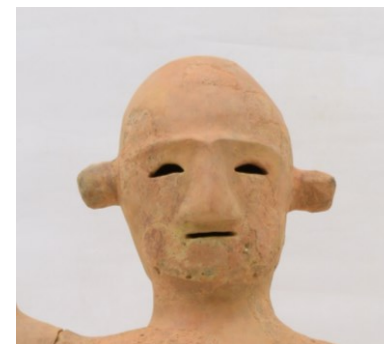
完成（正面）



完成（背面）



修理前



修理後

少し引き締まった表情になった気がしますがいかがでしょうか？

④彩色を行って完成です。

基部や右腕が欠損しているため、基部の高さや右腕の形状などについては、他の埴輪を参考に復元を行っています。これらの復元方法については文化庁の調査官、市の担当者と修理担当で細かい点まで検討を行い修理を実施しています。